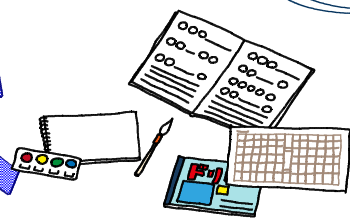


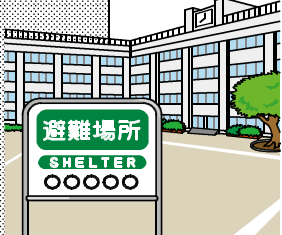
初志貫徹



加古川市立浜の宮中学校 第3学年

令和8年9月1日

長い夏休みが終わりました。夏休み中には熊本県の大震災、千葉県台風被害などがあり、このような災害を通して、日頃からの備えについて、改めて大切さを感じた人も多かったのではないでしょうか。さて、みなさんは計画的に学習を進め目標を達成できましたか？まだ気持ちが夏休みの人は、すぐに切り替える必要があります。今年もいつも以上に暑い9月になりそうです。体調を整え、目標達成に向けて「初志貫徹」を忘れずがんばりましょう！

日	月	火	水	木	金	土
8月30日	8月31日	9月1日	9月2日	9月3日	9月4日	9月5日
		二学期始業式 ①数テ ②理テ ③学活 給食なし ノ一部活デー	①英テ ②国テ ③社テ ④学活 ⑤学活 給食開始	専門委員会		
9月6日	9月7日	9月8日	9月9日	9月10日	9月11日	9月12日
			アルバム写真撮影 ノ一部活デー			
9月13日	9月14日	9月15日	9月16日	9月17日	9月18日	9月19日
		3年GTEC	新入大会壮行会 ノ一部活デー	3年GTEC	市内新入大会 給食なし	市内新入大会
9月20日	9月21日	9月22日	9月23日	9月24日	9月25日	9月26日
市内新入大会	敬老の日	国民の休日	秋分の日			
9月27日	9月28日	9月29日	9月30日	10月1日	10月2日	10月3日
				中間テスト 給食なし	中間テスト アルバム写真撮影 給食なし	
10月4日	10月5日	10月6日	10月7日	10月8日	10月9日	10月10日
	全校練習 ダンス練習	全校練習 ダンス練習	全校練習 ダンス練習 ノ一部活デー	ダンス練習	全校練習 ダンス練習	

体育大会10月15日(木) 3年実力テスト10月20日(火)
コーラス大会・文化発表会10月29日(木)

長崎で平和祈念式典がありました

令和8年8月9日、修学旅行で訪れた長崎市で平和祈念式典が行われ、長崎市長は核兵器の恐ろしさや現状、「絶対悪だ」ということなど、平和宣言の中で読み上げられました。

7万人以上の方々が原子爆弾の犠牲となったことは決して忘れてはいけないことです。夏休みの課題を紹介します。2年生から行ってきた平和学習、修学旅行での平和集会を思い出して熟読してください。

平和宣言文の中で、核兵器は「必要悪」ではなく、「絶対悪」であり、人類と核兵器は決して共存できないという言葉が一番心に残りました。世界中で緊張が続く今「国家を守るため、核兵器は必要だ」という考え方がどれほど危険なことなのかを、強く訴えかけていると感じたからです。

この言葉と一緒に語られた「平和の原点は、人間の痛みがわかる心を持つこと」という言葉も深く心に刺さりました。核兵器の恐ろしさを頭で知るだけではなく、被爆した人たちの苦しみや悲しみを自分のことのように想像し、寄り添うことが何よりも大切だと気付かされたからです。この2つの言葉が印象的でした。

平和学習で学んだことや修学旅行で長崎に行って感じたことをずっと忘れずに、次の代に受け継いでいくことが大切だと思います。直接伝えることはできなくても、自分が知ったこと、感じたことをずっと忘れずに残しておくだけで、意識した行動に変わっていくと思います。

平和宣言にもあったように人間（ひと）の痛みが分かる心を持ち、相手の立場になり、わかり合うようにするには、まず一人ひとりが周りの人を大切にすることが一歩になると思うので、これからは、特に意識して周りの人を大切にしながら過ごしていきたいと思いました。

自分が最も印象に残った内容は「平和の原点は人間の痛みがわかる心をもつこと」という言葉です。核兵器の恐ろしさや戦争の悲惨さは授業で知っていたけれど、この宣言を読んで大きな争いやトラブルは、一人ひとりが相手の気持ちを考えられなくなって起きてしまうことだと思いました。

過去の出来事だから自分は関係ないしどうでもいい、ではなくて、普段から周りの人の気持ちを考えて考動することが大切だと思いました。

日々の学校生活やクラブチームの中でも、自分勝手なことをせず、相手の立場になって思いやりの行動をすることが、争いがなくなると思いました。

「浦上川の油と血と、汚れた水を飲みながら、次々に死んでいった」この言葉を聞いて、平和学習でみた「閃光の影で」という映画を思い出しました。この映画の中で、大火傷や内臓損傷を負った人が急に水を飲むと血圧の急変動によるショック死をおこしてしまうところでした。調べてみると、水には放射線物質などがはいており、二次被害の発生もあったそうです。

もう一つ印象に残った内容は「核兵器は絶対悪であり、人類と決して共存できない」という言葉です。国を守るための「必要悪」ではなく「絶対悪」。そもそも他の国全てが核兵器を持たなければ、こんな悲劇は起こらないと思いました。

最も印象に残ったのは「戦争という極限状態の中で、自国の存亡を懸けた究極の判断を迫られたとき、それでもなお核のボタンを押さないと、誰が言い切れるのでしょうか」というところです。本当に核兵器を使わずに保有していることで、他国に攻撃を思いとどまらせることができると核兵器保有国が全部思っているなら、そもそも核兵器なんていらなくないと思うし、そのように考えていたのなら、広島・長崎への原爆投下は行われなかったはずだと思ったからです。

実際に地球上には12000発以上の核弾頭があって、戦争が核戦争になってしまうと、戦っている国だけではなく、地球全体に影響が及ぶ可能性があり、核兵器がある限り、本当の平和がおとずれことはないと思いました。

最も印象に残った言葉は「平和の原点は人間（ひと）の痛みがわかる心を持つこと」という、13歳で被爆された故人の吉田勝二さんがいつも伝えていた言葉です。理由はその考えに強く共感したからです。他人の痛みが分かる人は他人を傷つけないし、全ての人が人間（ひと）の痛みがわかる心を持てば戦争はなくなると思いました。

平和をつくるには、日本だけではできません。地球にいるすべての人が協力してできるものだから、日本だけではなく世界中の人々に向けて、この宣言があるのだと思いました。